

## 佐世保・岩国の東アジアへの出撃拠点化を許すな

拡大・強化された岩国基地に空母艦載機の本格移駐が進められているが、その影響は米海軍基地と海上・陸上自衛隊基地を抱える佐世保にも大きな影響を与えている。

佐世保に配備されている米海軍の強襲揚陸艦ボノム・リシャルは近いうちに同型のワスプに交代するというが、その目的は垂直離発着ができる新型戦闘機 **F35B** の運用を可能にするためだ。その戦闘機が配備されるのは岩国基地で、沖縄に駐留する海兵隊の作戦を支援し、東アジアへの出撃拠点としての強化につながるものであり、沖縄・辺野古の新基地建設、岩国への空母艦載機部隊移駐、佐世保での強襲揚陸艦交代配備は一体となったものである。

また、11月初めには佐世保湾内にあるホバークラフト型上陸用舟艇（LCAC）の夜間航行訓練が、地元自治体の中止要請を無視して3日間にわたって強行された。この訓練はLCACの駐機・整備場がある施設から日没後に幅約700メートルという狭い水路の佐世保港口を通過して沖合まで往復航行するという訓練で、安全や騒音の問題があるためこれまで行われてこなかった。

この時期に海兵隊の夜間強襲上陸手段としてのLCAC訓練を強行するのは、明らかに朝鮮半島情勢を利用した「朝鮮共和国による危機」演出によるものに他ならない。

一方、自衛隊は「離島奪還・島嶼防衛」を担うことを理由に新編成の水陸機動団を編成し、その主力が駐留する基地を佐世保湾内にある崎辺地区に建設を始めた。水陸機動団は米海兵隊が使用している水陸両用強襲装甲車「AAV7」を装備し、佐賀空港に配備が計画されている自衛隊のオスプレイとともに強襲作戦を行う、日本版海兵隊と指摘される部隊である。

この部隊が強襲上陸するときには、独自の航空支援能力を持たない自衛隊に代わり米海軍と海兵隊の支援の下での作戦となるが、その航空支援を受け持つのは海兵隊航空基地のある岩国の航空戦力であることは言うまでもない。

岩国への空母艦載機部隊の移駐は、岩国のみならず佐世保の市民にとっても認められるものではなく、アジアの平和と安定に逆行するものと言わざるを得ない。

2017岩国行動を機に、さらにアジアの平和のため連帯しよう。

リムピース編集委員 篠崎正人